

に向ては防の助られしを蒙り我も却てふるまじし
とて笑ひたるに後故味方ハ乱れ深田繩を此婦に
まゝ我先と馳合ひ命惜まじ戦ひたる事其大勢
荒れ入替責め城中小を執るに不叶して城中
半退きたる能登守は休まりて市坊の城を守
る王其敵を追退けんと例の鉄椎お振り馳出會
もあらず目手に出るを幸ひお倒れは勢ひあらず
易して我先と逐々退く能登守何方とものかきしと追
詰くお倒れあらず山形さして引退く能登守猶も追かけ
漆山先を七追行まじと思ひ返し長追して歸る道を遮る水

を一大子なりんと引返りたるか能より宗人馬をれ腹帯
も四郎とんとりて此鎧踏透し志めずしるは敵西繩
多（七）騎逐々行く中ハ只一騎取返し馬宗を能
登守より甲此志向丁々とおりける能登守さても能
高きし是を見れば十宅此若武者なり和殿誰人
名宗給いと云ふれハ本間左馬助の嫡子同七郎生年
十七歳と云ひこれハ能登守完尔と笑ひ健氣なる若
者哉市井の格ある少年討んと長氣あり志やさしれ
は助るなり和殿さういひて及んや早く歸られし縁
何ハ市井に見えしとて高別れなる七郎も亦引